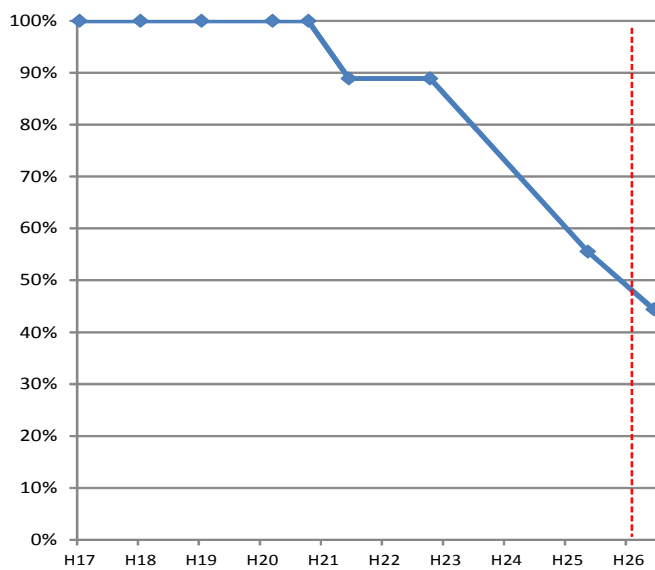


樹種名	ネズミモチ（別名：タマツバキ）	
科 目	モクセイ科	
学 名	<i>Ligustrum japonicum</i>	
分 布	日本では本州・四国・九州・琉球列島に広く見られ、国外では台湾と中国に分布する。低地や低山の日向に生える。	
樹木特性	照葉樹林における代表的な陽樹であり、森林内の開けたところや山火事のあとなどに多数見られる。	
用 途	公園樹として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	9本 (他樹種との混植)	
特 徴	<p>【樹形】 常緑低木で樹高は2~3mになる。よく横枝を出して、塊状の樹形になる。茎は灰褐色をしており、その表面に多数の粒状の皮目が出るのが特徴。葉ははっきりと対生し、長さ4~8cm、楕円形から広卵状楕円形、厚手でのっぺりとしており、表面にはつやがある。葉柄は長さ5~12mm、紫色を帯びることが多い。</p> <p>花は6月頃に咲く。花序は円錐形で、枝先に出て長さ5~12cm、多数の花をつける。花は経5~6mm、花冠は白で、中程まで四つに割れ、それぞれが反り返る。雄しべはこの花冠の裂け目の内の対面する二つのところから出て、花冠の裂片くらいの長さがまっすぐに突き出る。花序が多数出たため、木全体に真っ白の花の塊が散らばったようになり、遠目にもよく目立つ。また、ハナムグリなどもよく集まる。</p> <p>果実は長さ8~10mmの棒状に近い楕円形で、はじめ緑、後に表面に粉を吹いて黒く熟する。街路樹や生け垣として利用される。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後4年を超えたあたりから枯死が見られ、現存率は44%となった。枯死の原因は明確ではないが、林内の照度が低下したことも要因のひとつと考えられる。9年を経過した平均樹高が2m程度と成長量は大きくはないが良好に生育している。	
被 害	特になし。	

ネズミモチ 現存率



【現存率】

植栽後 4 年以降に枯死が発生した。林内の照度が低下したことによるものと推測されるが、特定はできていない。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 44.4%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

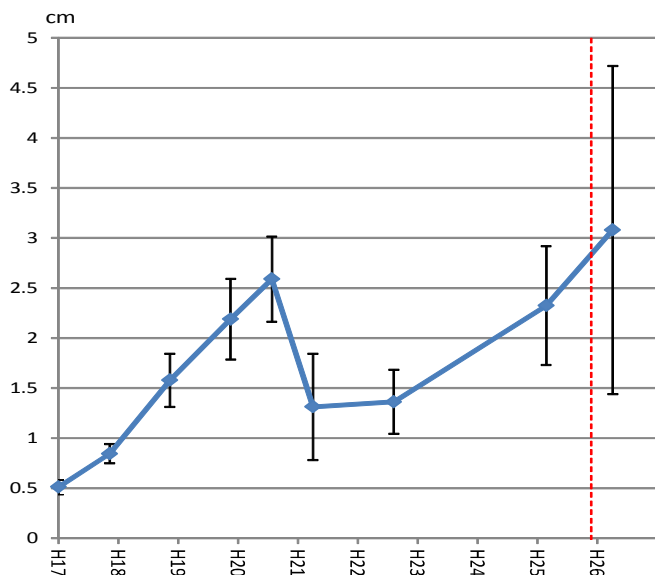
現存木の成長は良好である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 3.08 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ネズミモチ 根元・胸高直径



【樹高】

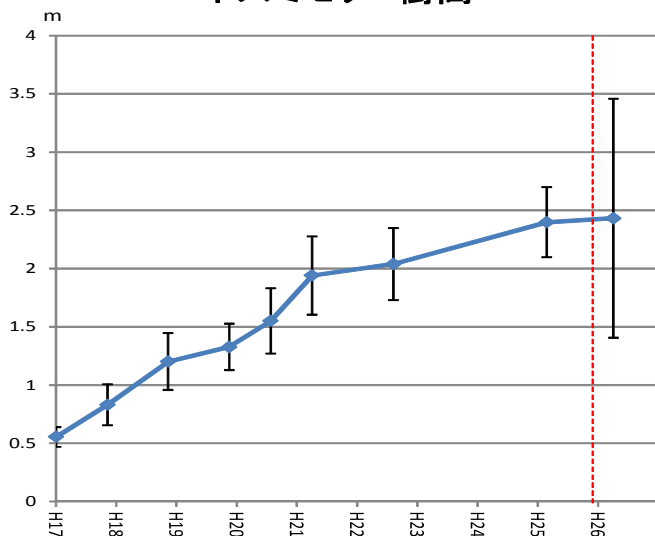
現存木の成長は良好である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 2.43m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



ネズミモチ 樹高



《プチ情報》

モクセイ科の中で同様に利用されている種として、フロクロモチとトウネズミモチがある。

フロクロモチ var. *rotundifolium* は葉が丸くなり、枝が詰まり園芸品である。

中国原産のトウネズミモチは非常によく似ているうえ、あちこちで栽培されることが多いため、混乱を生じている。葉を裏から日にかざして見ると、本種は葉脈が透けて見えない（トウネズミモチは葉脈が透けて見える）。

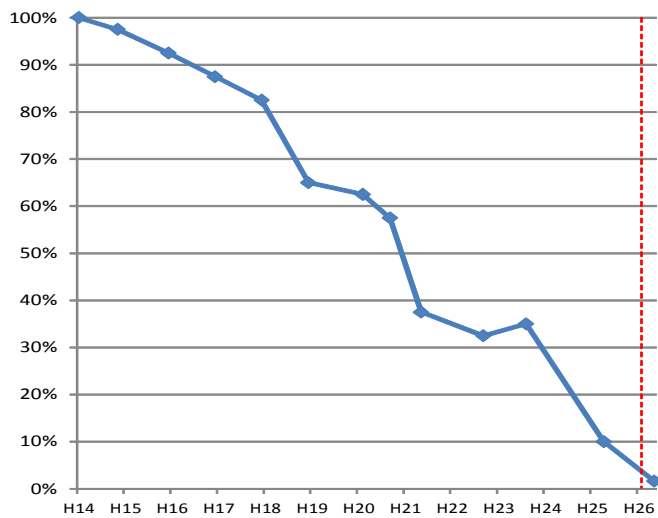
また、本種の果実は楕円形である（トウネズミモチの果実は球形に近い）。

この他、日本では同属にイボタノキなどがあり、似たような場所に生えるものもあるが、ほとんどは落葉性であり、この種のような厚ぼったい葉を持つものではないため、区別は簡単である。

和名は、果実がネズミの糞に、葉がモチノキに似ていることから付いた。暖地に自生するとともに、公園などに植えられている。「タマツバキ」の別称も用いられる。

樹種名	ネムノキ	
科目	マメ科	
学名	<i>Albizia Julibrissin</i>	
分布	イラン、アフガニスタン、中国南部、朝鮮半島、日本の本州・四国・九州に自生する。 ネムノキ属は主として熱帯に 150 種ほどが分布するが、その中でネムノキは飛び抜けて耐寒性が強く高緯度まで分布する。温帯で広く栽培され、一部で野生化している。	
樹木特性	陽樹であり、二次林や伐採跡地に生え、ときには河原の砂礫地などのやせ地にも生育する。	
用途	公園樹、建築・器具材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	320 本 / 0.10ha (2,000 本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】 ネムノキ（合歓木）はマメ科ネムノキ亜科の落葉高木の肥料木であり、林縁・原野などの日当たりの良い湿地によく生育する陽樹であり、荒地に最初に侵入するパイオニア的樹木である。河原や雑木林に生え、高さは 10m にもなる。芽吹くのは遅いが、成長は他の木と比較すると迅速である。 葉は 2 回偶数羽状複葉。花は頭状花序的に枝先に集まって夏に咲く。淡紅色のおしべが長く美しい。香りは桃のように甘い。 開花時期は 7~8 月に咲き、雄しべは桃紅色、豆果は 10 月に熟し、10~13cm で 10~15 個の種子が入る。 果実は細長く扁平な豆果。マメ科に属するが、マメ亜科に特徴的な蝶形花とは大きく異なり、花卉が目立たない。 樹皮は灰褐色で、褐色の皮目があり、材は柔らかく脆いことから、観賞用の他に、街路樹としても使われることがあり、害虫駆除、鎮痛、家畜の飼料などにも利用される。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽直後にシカやウサギの食害により壊滅状態となったことから、場所を変えて改植したが結果は同じであった。成長はとても遅い。	
被害	野兔・鹿による食害が著しい。	

ネムノキ 現存率



【現存率】

植栽直後から野兎・鹿による食害等により枯死が発生している。

このことから、植栽直後の平成9年、10年にわたり補植(120本)を行ったが枯死した。

さらに平成14年に場所を移し改植(180本)をしたが枯死が発生し続けた。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は1.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

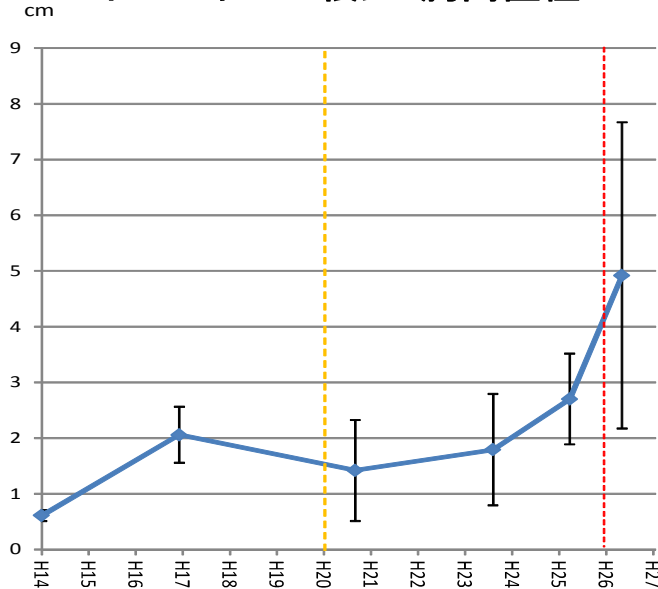
生育は悪い。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、4.92cmであった。

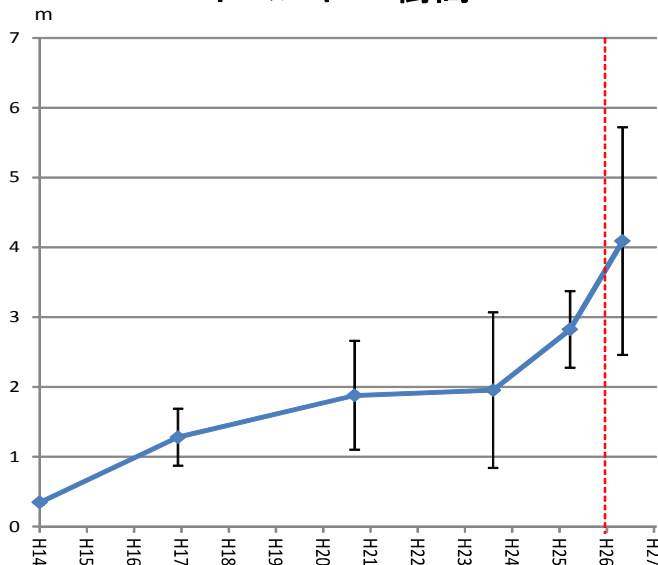
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ネムノキ 根元・胸高直径



ネムノキ 樹高



【樹高】

生育は悪い。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、4.09mであった。

※ 赤線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



《プチ情報》

中国医学ではネムの花を生薬として用いる。性は平、味は甘であり、精神安定や不眠解消の効果があるとされる。樹皮にはタンニンが含有され、打撲傷に効能があるといわれている。

名は暗くなると葉が垂れ下がり相対する小葉が合わさって閉じ眠ったように見えることに由来する。別名、ネム、ネブと呼ばれる。

和名のネム、ネブは、夜になると葉が閉じること(就眠運動)に由来する。漢字名の「合歓木」は、中国においてネムノキが夫婦円満の象徴とされていることから付けられたものである。